

人生の旅に大切な宝は、金や物で  
はなく、報恩のよろこびと、明るく感謝の  
心である。

## 幸せへの反省

誰でも幸せになつたと思つて、しかし神仏が  
幸せにしてやらないと思われなければだめである  
幸せにしてやらないと思われただけのこととして  
いるかどうか、これを反省してみる。

幸せへの反省、そを、幸せに通じる道である。

# 運命

運命は自分自身の心の姿である

自分を正すこと以外に運命強化の道はない

腹がたつとつうのはね、自分にあわせ  
ようとするからだよ、

自分にとらわれたい、あける、ほなす  
相手に合わせる勉強をしない

## 先祖の余徳

人間の一生は短い、そのはかない一生に不思議  
とられるほど運命のよい人がある、それは皆  
かくれた祖先の土台と余徳があるからである

親が子供に残すものは、金や財産ではなく  
その子の良き運命を守る徳の力である

# 幸と不幸の別れ路<sup>みち</sup>

汗を流ばる、親切の限りをつくす、その結果財産が  
できた、その財産は幸せと縁が出来る、一巨億の  
富ともしても不幸や争いと縁の出来る財産は、  
その人の不徳と表わしてゐる

無理にたふんで持った愚かきである

なくて七くせ

人間には色々なくせがある。悪いとわかっているものがやめられなかったから好きな事をやめるより良いことに夢中になる。そうすれば悪くせもつい忘れる。尊いこと好きしい仕事、これを見つめることが大切である。

人間の心魂を明るく力強くするものは、  
仕事を通して世の中に奉仕することである

# 人生の生き方

人はしつかり守られてうろかり生れた。  
昼はしつかり働く、夜はうろかり眠る。  
人間は全部しつかりする必要はない半分はしつかり  
半分はうろかり、これが人生の正しい生き方である

立場をかえして

正当という名をかりて自己の心のせまさが  
人を責めつゝる場合が多い

立場をかえてながめることが大切である



# 心の器うつわ

容れ物が小さいに自分のことだけでいっぱいになる、  
まず他人のことを理解するずるくもごまかすも  
やる人にはそれだけの理由がある。忘れるほどと  
思いやりの心でのみこむ、そしてその後自分の  
ことを押し込む人であつた。

子供に言つて機嫌が悪いといふとは、  
貴方が目上の人（親・主人・姑・師）に言われた時  
貴方が機嫌が悪かつたといふことだよ

夫婦げんかもね、たまにはいいよ、

中学生同士がすもうをとるとするね、お互いに勝ちたいばかりだらう、おじいさんと孫がすもうをとるとするね、おじいさんは孫にとりやそ負けてやらうかと、それはかり考える、

結局先に負けた方が勝ちなんだよ、

(問、自分の性格を変えるにはどのくらいの年限がかかりますか)  
そうまあ五十年ね、五十年かかるとやると少し、  
頭のいい人間より機嫌のいい人間魂のいい人間にゆりなない

明治天皇の御製

嵐吹く世にも動くな人ごころ

いとおに根ぐす松のごとくに

恐ろしいのは山嵐そのものではない嵐にまき込まれて、ついで  
いよいよな根の弱々が恐ろしい  
人間も岩の上に根をほら松のようには根強くなれ心の  
根を強く張れ、こころ教えられるています。

世の中で一番恐ろしいのは自分の自惚れである、  
油断である買いかぶられて反省しないことである

指一本を目の前にもつてくれれば富士山の姿も見え  
かかれる、人間は近いものに囚とらわれやすい、  
しかし偉大なるもの、天地のまはりのまはりがあ  
ることを忘れてはいけない

# サーカスの綱渡り

通るに通れない、こすにこせない、人生の嵐もサーカスの綱渡りのように、自分を空からにして足元を見ず、目も心も向こうにあわせ自分をさすげ切って渡ればどんな危ない綱づなの上でもわたり切ることができる。

砥石

不幸や災難は人生の砥石である。

自分のみがまが終われば砥石は必要なくなる

殻から

政治でも宗教でも事業でもいつのまにか色々な  
殻からに包まれてくる殻からにくられて考え方が狂つては  
いけないだらうか、常に反省し、それを正す、これが  
賢明な生き方である。

(問、身に覚えがないのに誤解されまゝした)

誤解とご縁があつたんだねえ、

もし人に誤解されたら、ああ人を誤解しては  
いけないんだねえと、自分が反省すればいいんだよ

こすらねは

どんぢにいい石けんを使つても只つ斤ただけでは  
垢あかは落ちない

よい本を讀みよい話を聞けども、実行がなくては  
片ない、それは単に石けん水に浸つてゐるのと  
同じである

人は病気や災難で死ぬのではない

天運のよくなる時・寿命のよくなる時に倒れるのである

# 土台を固める

経営者を苦めて労働者の繁栄はない  
労働者を苦めて天命の守りはない  
まず土台を固める互いに相手を生かす自らを  
空にして働く、その後、個々の栄えがある

取り越し苦勞をすれば心を

苦しめただけつ生の火損となる

金は縁を結ぶ道具である、悪い金を  
つめば不幸と縁が出来る、よいことに  
しほり出せば幸せと縁が出来る

# 不運の涙

身を守る、自らの家を守る、そのために不正な  
金をつねむ、地位をつねむ、しつこくそれが不遇、  
不幸の源泉となり、成功して内うちに不運の涙  
を流す人である

# 四神相応の地相

北に高い山、これを玄武げんぶと云う、東に流れる河、これを  
青竜せいりゆうと云う、南は低くよく物が育つ、これを朱雀しゅかくと云う、  
西に交通の便、これを白虎ひやくこと云う、この四つで包ま  
れた土地を四神相応の地と呼ぶ

りつぱなことをいう人は多い、

よいことを書く人も多い、

しかしりつぱなことを仕上げる人は少ない